

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275800223		
法人名	(有)弥生トータルプランニング		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	大網白里市永田956-5		
自己評価作成日	平成27年1月19日	評価結果市町村受理日	平成27年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成27年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>民家改造型のメリットといえる家族的な暖かい雰囲気を醸成し、かつ利用者さまの視点で、一人ひとりが能力に応じ自立した生活が出来、常に利用者の笑顔が見られるように支援していきたい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>庭付き民家を改装したホームは梅、柿、栗、竹林など自然に囲まれており、四季を感じる事ができる。経験豊かな職員は教育、行事、体操、レクリエーションなど運営面、生活面で各自が役割を持ち、責任をもってアイデアを出し合って家庭的な生活が営めるよう支援している。「ヒマは地獄」を合言葉に、できるだけ利用者に注意を向け、目を離さず、声をかけ、話を聞くを徹底し、笑顔を絶やさないと目標としている。記録もわかりやすく整理されている。また年度ごとに介護目標と行動目標を掲げ、毎月のミーティングではテーマを具体化し話し合っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔をもっとに理念を共有し、その実践に向けて日々取り組んでいる。	”笑顔”ある暮らしをモットーとして、今年度は介護目標と行動目標を掲げた。目標実現にはコミュニケーションが最も大切と考え、遠慮なく話し合える関係づくりや一人ひとりの声を聞くことに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の河川敷清掃、公民館の掃除等は必ず参加している。また散歩に出かけた際に必ず地区住民の方々と「笑顔」で挨拶を交わしている。近隣の住民からは季節の野菜や果物を頂くこともある。	自治会に加入し、回覧板を通じて情報を得ながら、地域の新年会、敬老会、公民館の清掃などに参加している。近隣地域は高齢化と過疎化が進み、関係づくりが難しくなりつつあるが、ホーム側から交流が持てるような働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の清掃、老人会の行事に積極的に参加して、地域に溶け込み相互の理解を深めている。また地域住民の方々と防災活動、救命訓練などの参加を呼びかけ地域との一体化を通じて理解や支援を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や老人会の責任者に対してホームの理解を得られるように2か月1回会議を開催している。また必要に応じて説明している。	年6回実施しており、会議では積極的に運営に関わる相談をし、アイデアを参加者に求めている。市の担当課や民生委員からは地域の多様な情報が得られている。家族への会議録の送付を検討しているところである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会あるごとに市役所などを訪問して必要な情報を入手するほか、市の保健会議のメンバーとして会議に出席している。また自治体からの行政指導や必要な相談ごとには随時対応している。	市担当課職員が毎回、運営推進会議に出席しており、情報交換をしている。また、管理者が直接市役所に出向き、担当部署の職員と顔を合わせ、関係性をつくるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや日常の申し送り、更に研修等に積極的に参加して、常に安全で開放的なケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する外部研修に職員が交代で参加し、スタッフミーティングでその内容を共有している。安全面などについて徹底的に話し合ったうえで、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、その過程については記録として残すことにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連する専門誌、新聞、雑誌等を切り抜きするなどして、職員に参考資料として回覧するなど、注意喚起や周知を徹底させ防止策に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経営者(行政書士)が千葉県後見人支援センターの理事の経験者であり、機会ある毎に自立支援や成年後見人制度について学習している。また市の包括支援センタからも常時相談する機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に権利義務を明記し、利用者や家族などに不安や疑問点に対して十分な説明を行い理解を得て納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や不安・苦情を説明できる機会を事あるごとに設けて運営に反映させている。	家族が来訪した際には、利用者の様子を伝えて意見を聞くようにしている。お小遣いや衣類の補充などを家族に依頼することで、来訪の機会を多く持ってもらうことにつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議を開催して出席できない職員に対しては会議課題に対する意見を提出させている。更にはスキルアップを希望する職員には各種の研修に可能な限り参加させている。	毎月のスタッフ会議は全員が発言する、否定はしない、などを原則としている。職員が各々担当を持っているため、意見が出しやすく反映しやすい。法人代表、管理者は個別面談を通じて、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの家事都合と希望休暇を多く取り入れるなど、職務のバランス調整をスタッフ相互に図るシステムを設け、職員同士が意見交換できる雰囲気を作っている。個々の努力や実績勤務状況を客観的な人事評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を受ける機会をと取り入れて働きながらトレーニングを積むことを勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは不定期であるが、必要に応じて定例会議に出席した際や電話による連絡、相互訪問等で交流を深めている。一方、全国のGホーム協力会に加盟しており、同協会から情報を得てサービスの向上に取り組んでいる。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	人が困っていることなど本人自身から積極的に聴取して信頼関係を作ることに努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が施設を訪問した際には、日頃の利用者本人の様子について説明し、困っていること、不安なことなど各要望事項をよく聞き、信頼関係を構築している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族が必要としている支援を見極めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は決して先立つことなく、利用者と同じ目線で過ごしながら支え合う関係を構築している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	喜怒哀楽を共にしながら、家族との連絡を密にして相互の信頼関係を構築することに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないようにその機会づくりに努めている。また利用者の友人等の訪問を歓迎している。	日々の利用者との関わりの中から馴染みの場所などの把握に努め、関係が継続できるよう支援している。家族などとの電話の取次ぎや孫や知人の訪問も歓迎している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をよく掌握してさりげなく係るように意識している。一方、利用者同士も互いに各人の部屋を訪問している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移ったケースにおいても家族の相談があれば利用者に対する継続的支援には応じる態勢である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人に暮らし方の希望や意向を適宜適切に聞き、本人の意向に沿うように努めている。	利用者の思いや要望などは日常の関わりの中で聞き取り、モニタリングシートに記録して、職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方をよく把握し、馴染みの暮らし方を維持・継続することが可能となる生活環境をつくることに心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの状況を日々把握しながら一ひとりに応じたケア、フォローを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議において、より良い暮らしを過ごせるように各利用者ごとに適した介護計画を作成している。	介護計画書は月に一度行うモニタリングと、カンファレンス時の職員の意見、家族の来訪時に聞いた意向を反映させて、ケアマネジャーが作成している。ケアプランは6か月ごと、また、状態の変化があった場合はその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの介護日誌を詳細に記録に留めて職員同士が情報を共有して日常の介護に活かしている。特に夜勤から日勤への申し送りについては十分な時間をとり、その都度適切な態勢で臨んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に即対応可能な態勢を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じて、地域と協力しながらの支援態勢である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院である「岡崎医院」に月1度往診してもらっているほか、常に緊急時でも対応可能な態勢を整えている。	ホームの提携医による月に一度の訪問診療や予防接種、年2回の健康診断などで健康管理を行っている。主治医とは24時間の対応や気軽に相談にも応じてもらえるなど良い関係ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常的健康管理を実施するとともに、適宜適切な医療機関活用を行う支援態勢である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時における協議、入院中での対応、あるいは早期退院に向けての医療機関との担当者会議に出席するなど、医療機関との関係をより密にしてして常に情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は掛かりつけ医とよく相談して方針を喫決めることになっている。	契約時に、ホームでは看取りをしない方針を家族に説明し、了解を得ている。医療的処置が必要になった場合は、家族と話し合い、利用者の状態に応じて施設の紹介や手続きなどを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間の緊急連絡網の常備、定期的な防災・救命訓練の実施等各職員が常に緊急事態に対応可能なような訓練や意識を周知徹底している態勢である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難計画マニュアルを作成して伝達・通報態勢や避難方法・場所等を見える場所に掲示し、全職員が避難計画に沿って行動が可能なよう指導・訓練を重ねている。また地域、自治体、消防等との関係を密にしている。	26年度は台風襲来時に近くの公民館に1泊した。利用者はパニック状態にも陥らず就寝できた。夜間想定、消火器の使い方などの訓練も実施している。また、水や食料の備蓄の他、ヘルメット、雨合羽、ランタン、ガスボンベ、シートなどの用意もある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉かけ、対応記録などにおいて、個人の尊厳を守り、誇りを傷つけないことを意識している。また個人情報の管理・取扱いには十分注意を払っている。	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握し、一人ひとりを尊重した支援に努めている。トイレ誘導や入浴の際にも、プライバシーに配慮した対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食、美容、買い物など直ぐに応じている。また日常生活の中でも利用者が積極的に活用できるように選択場面を広げる工夫を図っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好みの歌やテレビ番組など、一人ひとりの好みを大切に、且つ他の利用者との兼ね合いを調整しながら希望に沿った支援を実践。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔を心掛けて美容院(カット、パーマ等)に行くこと、化粧品を希望に応じて購入するなど、おしゃれを楽しむ支援を実践。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとり食事はメインとの意識を持ち、苦手食材を承知しているほか、材料が同じでも食事内容が異なる工夫、菌の無い利用者に対しては食べ易い内容など献立を創意工夫している。同時に生活当番を決めて、食事の準備、かたづけなどメリハリのある生活感を持たせている。	普段の食事は食材会社からくる食材と献立を使って、ホームで調理をしている。利用者もできる範囲で下ごしらえや下膳、食器洗いなどに参加しており、会話をしながらの楽しい食事風景が見られた。また、お彼岸にはおはぎ、秋には干し柿、冬には切り干し大根などを利用者と共に作り、季節を感じてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算のできる食材を取り寄せているほか、栄養バランスを考えて3品以上の副食品を添えている。ご飯量は個人に合わせている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の歯磨き、昼のうがいを励行している。また週2回以上のポリドントを実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さりげなく声をかけるほか、本人の習慣を大切に活かしてトイレでの自立排泄を支援している。	日中、夜間を含め、利用者の排泄のパターンや習慣などを把握して、こまめな誘導を行い、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の便チェック、水分、食事に気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏は週3回、冬は週2回と極力利用者の希望に沿う方法で入浴をしている。	しょうぶ湯、ゆず湯など季節を感じられたり、入浴剤などの使用で入浴が楽しくなるように支援している。入浴があまり好きでないという利用者にも無理強いせず、声かけの順番を変えたり、時には足浴にするなど臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個人の生活習慣を尊重して安眠や休息が可能な態勢を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々人の服薬目的と用法・用量を職員が把握し、更に服薬の確認のために服薬記録を作成している。また病状の変化についても常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力、体力を念頭に置きながら根気強く接し、本人の役割や楽しみがより豊かになるように創意工夫を常に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設外での希望に沿う外食や購入したい物があれば自分で選べる外出支援を行っている。天気の良い日は散歩に出ているほか、地域の行事には積極的に参加し、外出することにより生活感や地域とのかかわりを意識させる工夫をしている。	気候が温暖な時には近所を散歩している。冬場はドライブなどで外に出る機会を作っている。また、外食や個別の買い物などの支援も行っている。リビングのテラスから自由に外に出ることができる環境であり、職員は見守りに対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームが管理しているが、買い物等は本人の希望に沿えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や大切な人との電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居宅をそのままに残した玄関、共有スペースのメリットを十分に活かした空間の工夫。庭に梅、柿、栗、柚子など四季に応じてそれを収穫できるなど年間を通じて季節を感じられる家庭的な居場所を設置している。	民家改造型のホームであり、リビングからはテラス越しに庭が眺められ、キッチンからは調理する匂いが流れてくるなど、利用者は自宅にいるような家庭的な環境の中で生活している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間から直接ウッドデッキや庭に出られるなど、直接、外気に触れて目、肌、耳など五感で感じられる雰囲気づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓され、好みの絵画や写真を飾るなど長期にわたっても居心地の良い居住空間に可能な限り配慮している。	居室は和室が5部屋、洋室が1部屋である。和室はベッド、布団どちらでも対応している。タンス、イス、机など馴染みの家具が持ち込まれている。掃除も行き届いており、清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全職員が利用者のひとり一人の状態を把握しており、建物内部の安心・安全に配慮して自立した生活習慣が十分に可能なように支援態勢を創意工夫している。		